

# 日本の暮らし伝える「豆紙人形」

## 生誕100年記念、初の里帰り展

手のひらに乗るほどの「豆紙人形」を88歳から作り始め、国内外で個展を開いてきた北九州市出身の故マサコ・ムトー（本名・武藤正子）さんの生誕100年を記念した企画展が、小倉北区の津の森公園で開かれている。マサコさんは、市制50年目の節目にあたる2月10日生まれ。そんな偶然が縁となり、初の「里帰り展」が実現した。6月16日まで。

北九州市出身

### 故マサコ・ムトーさん創作

会場には、最晩年のマサコさんが病室で描いた夕日の絵がきざきざと並ぶ。次女で作家のヒロコさん。マサコさんが「豆紙人形」と名付けた作品は、

千代紙やチラシで丹精に折った紙人形。着物の少女が遊ぶ様子や、銅い職人など、大正から昭和期にかけての市民の暮らしを思い浮かべながら制作したという。亡くなる93歳までに制作した約300点のうち、会場には88点を展示している。



故マサコ・ムトーさん

### 「生きる喜び感じて」森公園に到津



「豆紙人形」は、大正期の暮らしや祭りなどを精巧に表現している

一男二女の母で専業主婦だったマサコさんは、69歳で夫と死別。直後に右目を失明したが、バスタオルの教室に通い始め、88歳からは独学で豆紙人形づくりを始め

た。観覧には、同公園の入園料が必要。同園09

3(651) 1805。

7日のトークショーで、

(大庭麻佐子)